

# FLORA of KOCHI

No. 45

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 春夏編

### キジムシロ属 (バラ科)

*Potentilla* L.

キジムシロ属 (バラ科) は日本に 20 種類ほど、高知県では 12 種類が確認されています。ヘビイチゴやミツバツチグリなど道ばたでふつうにみられる種類もある一方、ツルキジムシロやテリハキンバイ、ツルキンバイ、ミツモトソウは希少植物で、カワラサイコは絶滅種になっています。

近年の分子系統学的解析や組み換えにより、別の属とくっついたり離れたり、種類の移動の多い属です。最近出版された改訂新版日本の野生植物では、ハクロバイ (ギンロバイ) がキンロバイ属 *Dasiphora* に、ヘビイチゴ属 *Duchesnea* だったヘビイチゴやヤブヘビイチゴが本属に含まれるようになったところが高知県植物誌との違いです。また、徳島県では吉野川市川島町で阿部近一氏により採取された古い標本から、ヒメヘビイチゴがみつかっています。もしかしたら高知県では見逃されているのかもしれない。

各種類の区別点はわかりやすいものの、形質の組合わせを忘れてしまいがちです。今一度見直してはいかがでしょうか？



ミツモトソウ (いの町本川)



カワラサイコ (高知市仁井田)  
東京都立大学牧野標本館所蔵標本

表 キジムシロ属の検索 (高知県で確認されている種類と確認される可能性がある種類)

果実期の花床は球形に脹らむ 内部はスポンジ状	葉は黄緑色 果床は光沢がなく有毛 果実にシワがある		花:4-6月	<i>Potentilla hebiichigo</i> Yonek. et H.Ohashi ヘビイチゴ		
	葉は濃緑色 果床は光沢があり無毛 果実は平滑で、光沢がある		花:4-6月 (秋も咲く)	<i>P. indica</i> (Andrews) Th.Wolf ヤブヘビイチゴ		
果実期の花床は膨らまない 膨らんでもスポンジ状にならない	小葉は5~7枚 葉は掌状複葉		花:4-6月	<i>P. anemonifolia</i> Lehm. オヘビイチゴ		
	花は単生 葉は3出複葉	花は単生 葉は3出複葉		花:4-8月	<i>P. centigrana</i> Maxim. ※ ヒメヘビイチゴ	
		花は3出複葉か羽状複葉	花は集散花序に多数つく	茎は直立	葉は3出複葉	花:7-8月
	葉は羽状複葉 小葉は15-29枚			花:6-8月	<i>P. chinensis</i> Ser. カワラサイコ	
	根生葉の腋から花茎を出す	走出处なし	葉の裏面が白い	花:6-8月	<i>P. dickinsii</i> Franch. et Sav. イワキンバイ	
			葉の裏面は緑色	花:3-8月	<i>P. fragarioides</i> L. キジムシロ	
	走出处あり	葉は3出複葉	葉は羽状複葉	花:4-7月	<i>P. stolonifera</i> Lehm. ex Ledeb. ツルキジムシロ	
			走出处の先は膝状に屈曲する	花:3-6月	<i>P. rosulifera</i> H.Lév. ツルキンバイ	
			走出处の先は膝状に屈曲しない	根茎は肥厚する 花茎の下部の葉は葉身が発達する 根茎はあまり肥厚しない 花茎の下部はほぼ托葉のみ	花:3-5月	<i>P. freyniana</i> Bomm. ミツバツチグリ
				花:3-5月	<i>P. riparia</i> Murata テリハキンバイ	

※高知県ではまだ見つからない。

【引用・参考文献】

高知県. 2020. 高知県レッドリスト (植物編) 2020 年改訂版. 高知県.  
池田博・吉野由起夫. 2005. ヒメヘビイチゴ (バラ科) の新産地と日本における分布. 植物地理・分類研究 53(1):75-82  
池田博. 2016. キジムシロ属. In: 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 日本の野生植物 3: 33-40. 平凡社. 東京.  
小林史郎. 2009. バラ科. In: 高知県・高知県牧野記念財団 (編). 高知県植物誌 pp. 246-264. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.



# 高知県の植物 ニュース

■ 今回は一昨年から昨年に行われ 2種についての調査報告です。

## イソヤマアオキ *Cocculus laurifolius* DC.

2020年12月19日に須崎市の神島にイソヤマアオキの調査に行きました。神島のイソヤマアオキ(別名コウシュウウヤク)は中土佐町上ノ加江出身の宮崎卓氏により発見され、1995年に「須崎市神島の植物」として報告されています。本種はツヅラフジ科の常緑低木で、インドから中国南部、台湾、琉球、九州南部に自生する南方系の植物で、それまで四国では確認されていませんでした。

過去には2001年10月高知県植物誌の調査のとき、数人で調査に行き、なんとか見つけることができていました。その時は数個体しか確認できず、尾根近くのうす暗い林床に細々と生きながらえているような印象でした。その後、残存しているかどうか気になり何度か再確認の調査を計画しましたが、今回に至るまでことごとく天候不順等で中止になっていました。



写真1 片流れ屋根の建物のような島の様子

神島は野見半島の南端から外海に1kmほど離れた離島で、神島はちょうど西に傾斜した片流れ屋根の建物のような形をしており、南北に長く周囲は断崖で最高地点は88.3mあります。須崎港から磯釣りの渡船で渡ることができ、唯一渡船で上陸が可能なのは南西端の磯のようで、岩礁の間を抜けて着岸します。渡船から磯への上陸はさほど難しくありませんが、磯に上がってから断崖を登らなければ目的地の屋根の部分に行き着けません。

屋根の部分にはシイやタブノキの優占する照葉樹林が発達していて、下層にはヤブツバキ、タイミンタチバナ、ホソバカナワラビなどが生育しており、その中にぽつんとイソヤマアオキが生えていた記憶がありました。

この日は晴天で波はおだやか、調査には最高の条件

でした。渡船の事務所の方によれば、冬は比較的問題なく渡れるということでした。9時半に須崎港を出ておよそ30分後に神島に上陸、磯を登って崖まで来たとき、前日に用意した梯子とロープが役に立ちました。梯子を岩に立て掛け、その上の草地に取り付きロープを持って崖の疎林の中を登り、林の縁で木にロープを結びつけました。30mのロープは梯子までちょうど届く長さでした。



写真2 崖に取り付く様子

以前来たときの景色を思い出しながら西側の急な斜面をトラバースしました。イソヤマアオキは遠くから見るとヤブニッケイの幼木に似ていることがあるため、見落としているかもしれないと思い、ここぞと思った場所を何度も何度もルートを変えて探しましたが見つからず、途方に暮れました。しかも乾いた急斜面に照葉樹の落葉が積もっており、踏ん張っていないと滑りそうです。すぐ下は断崖絶壁で足を滑らしたら最後助かりそうにありません。さらに帰りは14時の約束で、他の釣り客の送迎もあるため船頭さんからは時間厳守を言いわたされていました。

西側斜面に何か所かある谷地形を探し、もうこの辺に



写真3 西側斜面の樹林内

はないと諦め、可能性は少ないと思いつつ斜面の幅が狭く樹高も低くなる北側に移動していきました。

もうそろそろ時間切れでダメかと思いかけたその時、大きなタブノキの根元に 1.2mほどの株を見つけました。シロダモのように3脈が明瞭な光沢のある濃緑色の葉と同色の茎、間違いありません、イソヤマアオキです。まわり



写真4 林内に生えるイソヤマアオキ

## サダソウ *Peperomia japonica* Makino

サダソウは高知や琉球などで採集された標本をもとに、牧野富太郎が 1901 年に発表した種で、なかでも須崎市の戸島は本種の北限であり、植物地理的にも保護上でも重要な自生地です。高知県には戸島のほか、四万十町興津三崎山にも自生が知られており、レッドデータブックの調査では両地点で自生を確認することができました。

須崎市戸島では、2020 年 3 月に南向斜面上部の林内で確認できました。急傾斜であるけれども木を伝って下りられるようなところで、生育地はやや明るい林内の露岩周辺など水分環境が保たれるような場所に限定されていました。北限の生育地ですので、気温はもちろん、光と水の環境条件も大きな制限要因だと思われます。しかし、今回確認できた生育地は、以前見た場所とは違うように思われました。戸島の中でもいくつか生育地があるのかもしれませんが、限られた調査時間の中、他には見つけることはできませんでした。また、以前と比べ島の環境が大きく変わっていました。西側に大きく崩落した部分ができたと、東南側にウミウの広大な営巣地ができていること、放棄された畑が増えたことなどがあげられます。それらがサダソウ



写真5 戸島のサダソウ

を見渡して見ると斜面の上の方にも数個体が生育しているのが見えました。早速個体数や樹高などを調査し、狭い範囲に大小 20 株以上あることが分かりました。

帰りは尾根を通り、途中から林の中を下ったところ、下りすぎてしまい GPS の軌跡を頼りにまた斜面を登り、やっとロープを縛っているところに着きました。安全に崖を下るのに少し時間がかかり、船には少し待ってもらうことになりましたが無事帰路につくことができました。

主要な分布地から遠く離れた土佐湾の離島の森に細々と生きるイソヤマアオキ。遠ざかる「神島」の姿を拝みながら、再び会えた喜びを実感しました。

### 【引用・参考文献】

宮崎卓 (1995) 須崎市神島の植物。高知県の植物 12 : 73-78

にどう影響するかはわかりませんが、離島で安心、という訳ではないと感じました。

一方、三崎山では 2019 年 12 月に岬の突端の斜面下部で確認することができました。植物誌調査の際にも確認されていましたが、崖の上からぎりぎり標本を採集しただけとのことで、全貌はわかっていませんでした。調査には、植物誌当時確認した方にご案内いただき、地元ボランティアの方にもご同行いただきました。記憶を頼りに行き着いた先は、ほとんど崖のような急傾斜です。もたもた下りていたところ、下の方から

「あったあった」という叫び声があがりました。持ってきてもらっていたロープを伝い、途中ぶら下がったり滑ったり石を落としながら急傾斜を下りました。サダソウは斜面下部や海岸林の縁などで無事確認できました。大きな岩崖にびっしり生えているところもありました。たどり着くのは大変な場所で、海岸工事は行われることはなさそうですが、南海トラフ大地震の津波で大きな影響を受けるだろうと思われました。

系統保存のため、両生育地から個体や種子を採集し、植物園で長期的な保存方法を検討する予定です。



写真6 三崎山のサダソウ

## ■ 令和3年度上半期 分類学セミナーのお知らせ

上半期の分類学セミナーは下記の予定で開催します。植物の見分け方、見分けるポイントを初心者でもわかりやすく学べます。そのほか、標本にする植物の採取の仕方、標本の作り方の講座もご用意しました。標本を作って植物を見分ける一連のやり方を学べます。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

申込先

メール：橋本 (thashimoto@makino.or.jp)

田邊 (kurahashi@makino.or.jp)

電話番号：088-882-2673

(標本庫直通, 土日祝日除く 9:00-17:00)

FAX 番号：088-882-8635(代表)

## 場所：牧野富太郎記念館本館アトリエ実習室(屋内)と植物園内(野外)

5月9日(日)

10:00～12:00

調査ボランティアガイダンス園内・標本庫案内(初級)

講師：稲垣 典年他(当園職員)

5月15日(土)

10:00～12:00

サトイモ科テンナンショウ属(初級～中級)

講師：邑田 仁(東京大学名誉教授・元小石川植物園長)

6月12日(土)

10:00～12:00

野外調査の仕方(初級)

講師：鴻上 泰(当園職員・土佐植物研究会会長)

\*メモ帳と筆記具を用意してください。

\*剪定ハサミ、根掘り、野冊をお持ちの方は、持参願います。

\*セミナー直前に詳細をご案内します。申込時に連絡先をお知らせください。

\*ボランティア登録者本人は窓口でボランティア登録証をご提示いただくと無料で入園できます。

### <注意事項>

●講義・実技中に写真撮影します。撮影した画像は牧野植物園の年報及び広告媒体等に掲載させていただくことがあります。

あらかじめご了承のうえ、お申し込みください。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の点にご協力をお願いいたします。

・発熱のある方、咳(せき)やのどの痛みなどの症状のある方は、ご参加をお控えください。

・マスクをご着用ください。ただし、熱中症予防のため、屋外で人と十分な距離(2m以上)を確保できる場合には、マスクをはずしてお過ごしください。

・手洗い、手指の消毒を行ってください(園内設置の消毒液もご利用いただけます)。

・他の参加者との距離(最低1m以上、できるだけ2m)を確保してください。

●取得した個人情報については、新型コロナウイルス感染拡大の恐れがある場合には、保健所、医療機関、高知県等の公的機関に提供することがあります。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座の中止や内容を変更する場合がございます。何卒ご了承ください。中止や変更については開催前日までに、申込時の連絡先へお知らせします。

## ■ タンポポ調査 2020 高知県報告展

「タンポポ調査・西日本 2020 高知県調査」の報告展を下記のとおり開催しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、報告会が開催できない代わりに、調査を通じて明らかになったことなどをまとめています。植物園にお越しになった際は、ぜひお立ち寄りください。

会期／2021年3月27日(土)～5月9日(日)

会場／牧野富太郎記念館本館 五台山ロビー

協力／植物調査ボランティア、タンポポ調査・

西日本 2020 高知県実行委員会

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田、橋本(季)が高知県の植物の問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にするか、新鮮なうちにお持ちください。

植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時に受付けています(Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号では、調査のご報告をいたしました。皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.45の発行担当：前田綾子・藤川和美



高知県立 牧野植物園  
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6  
TEL:088-882-2601  
FAX:088-882-8635  
http://www.makino.or.jp/

【本号の内容についてのお問い合わせ】  
前田 (ayakom@makino.or.jp)  
藤川 (saussure@makino.or.jp)

まで